

## 令和5年度第1回南アルプス市総合教育会議議事録

1. 日時 令和6年2月16日(金)  
開会午前9時56分 閉会11時10分

2. 場所 南アルプス市役所本庁舎3階大会議室

3. 協議事項

令和の日本型学校教育の推進

～ICT利活用から教育の質の向上へ～

4. 出席者

市長	金丸 一元
教育長	増山 希世彦
教育長職務代理者	渡邊 正義
教育委員	西海 真紀
教育委員	名取 昭彦
教育委員	芦澤 秀幸

5. 説明者等

教育部長	塩沢 直樹
教育総務課長	河野 弘
教育総務課課長補佐	坂本 強
教育総務課副主幹	向山 凡子
学校教育課長	内藤 大輔
学校教育課指導監	横小路 亮
学校教育課指導主事	清水 洋孝

6. 事務局

総合政策部長	櫻本	竜哉
総合政策部理事（政策推進課長事務取扱）	依田	賢治
政策推進課課長補佐	樋泉	孝司
政策推進課副主幹	中込	浩人
政策推進課主任	塩澤	宏紀

7. 傍聴人 4名

## 開会

（政策推進課・依田理事）

おはようございます。定刻の時間よりも若干早い時間ではございますが、令和5年度第1回南アルプス市総合教育会議を始めます。

最初に挨拶を交わします。ご起立ください。相互に礼。ご着席ください。

本日の会議の中においてご発言等がある委員の皆様におかれましては、恐れ入りますが、マスク等を外してご発言をいただければと思います。

それでは次第に基づき進行して参りますので、よろしく願いいたします。次第の1、市長あいさつ。金丸市長、ご挨拶をお願いいたします。

### 1、市長あいさつ

（金丸市長）

皆様、こんにちは。

本日はお忙しいところ、南アルプス市総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。また、教育委員の皆さまには、平素から本市の教育行政にご尽力いただき感謝申し上げます。

本日の総合教育会議につきましては、「令和の日本型学校教育の推進」ということで学校教育におけるICTの利活用について、ご協議いただきたいと思います。

学校教育におけるICTの利活用につきましては、GIGAスクール構想のもと、1人1台端末や、校内の高速大容量の通信ネットワークの環境整備を行い、令和3年度に本格始動してから3年が経とうとしております。今では授業で1人1台端末を使うことは当たり前になり、授業以外の校務でも活用していると聞いております。引き続きICT環境の活用を推進していただき、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、子どもたち一人一人に個別最適化された学びの実現にご尽力いただきたいと思います。

また、かねてから懸案となっていた1人1台端末の更新について、先般、国の基本方針が示され、今後5年程度をかけて端末を計画的に更新するとともに、端末の故障時においても子どもたちの学びを止めない観点から予備機の整備も進めるとしております。市としましても、ICTの環境整備につきましては、国の動向を注視しながら取り組んでまいります。

本日の議題につきましては、今後の学校教育において、非常に重要な課題であると捉えております。委員の皆様には、ICTの利活用の状況や成果、課題を確認するなかで、様々なご意見を積極的にお願いしたいと思います。

本日はよろしく願いいたします。

## 2、協議事項

(政策推進課・依田理事)

ありがとうございました。続きまして次第の2、協議事項に移ります。

会議の進行につきましては、南アルプス市総合教育会議要綱第5条第3項において、市長が行うものと規定されておりますので、ご理解をお願いいたします。

それでは金丸市長、これより進行の方をお願いいたします。

(金丸市長)

それでは協議事項に入ります。本日の協議事項は1件です。

「令和の日本型学校教育の推進～ICT利活用から教育の質の向上へ～」について、学校教育課から説明をお願いいたします。

<令和の日本型学校教育の推進について>

(学校教育課・清水指導主事) 資料に基づき説明。

おはようございます。学校教育課の清水と申します。よろしくお願いいたします。

学校教育課より「令和の日本型学校教育の推進～ICT利活用から教育の質の向上へ～」と題しまして、令和5年度までの取組みについて、成果と課題を中心に説明をさせていただきます。

まず、現行の指導要領では、児童生徒一人一人が自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら、持続可能な社会の創り手となることができるように育てていこうということが示されております。また、学校には「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指し、主体的・対話的で深い学びが実現できるように、授業の改善が求められております。その中で、令和3年に出された中央教育審議会答申では、令和の日本型学校教育の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方が示されました。

子どもたちが多様化する中で、紙ベースの一斉授業だけでは十分な学びは難しいのではないかということが言われております。しかし、これは今までの学校教育を否定するものではなく、従来の日本型学校教育の良さとICTの活用を組み合わせ、より良い授業を作り出していこうということを示したということになります。

以上のように示された令和の日本型学校教育を構築していくために、高速通信ネットワークとクラウドをベースとした1人1台端末を整備し、個別最適化された学びや協働的な学びができる環境をつくり、誰一人取り残されることのない学びを実現することを目的に進められているのがGIGAスクール構想です。

では、まずクラウドとは何なのかということを少し説明させていただきます。クラウドとは、インターネットなどのネットワークに接続されたコンピュータが提供するサービスを、利用者はネットワークを経由して自分のパソコンやスマートフォンで利用する形態のことです。今まではパソコンで何か作業するとなると、自分のパソコンに様々な

ソフトをインストールして使っていました。また、データはパソコン本体に保存し、他のパソコンに移すときにはUSBなどを使って移していました。それが今ではインターネット上にデータを保存できるようになり、どこにいてもインターネットさえ繋がっていれば、どのパソコンからでもスマートフォンからでも利用できるようになりました。クラウド環境の便利さを身近なことで例えるなら、今までタンス預金だったものが銀行預金になったようなものです。銀行というクラウドにお金を預けておけば、どこのATM（つまりパソコンやスマートフォン）からでも、お金（データ）を取り出すことができるということです。クラウドは現在の日常生活では当たり前に使われるようになっていきます。スマートフォンの中のデータを自動でバックアップしたり、メールをパソコンやスマートフォンで共有して利用したりしています。つまり、日常生活で利用しているクラウドを学校の授業でも上手に活用していこうということが言われているわけです。このような考え方にに基づき、本市では令和3年度よりご覧のような環境を整備することを目指してきました。

令和3年時に整備した環境を具体的に示すとこのようになっています。パソコン端末は全児童生徒に1人1台、各学級に1台を整備しました。AI型のドリルアプリは小学校、中学校にそれぞれベネッセとラインズ社のものを導入しております。また、Wi-Fiのアクセスポイントについては、普通教室や職員室等への整備が済んでおります。これらの環境をベースとして、全ての子どもが学校でも家庭でもICTを積極的に活用した学びができるよう取組みを進めてまいりました。

さて、ここからは本年度までの取組みを通して見えてきた成果と課題を中心にお伝えしていきます。成果としては活用が進み、様々な場面で当たり前GIGA端末が利用されていることが挙げられます。一方で、課題としては利用差が出始めていること、研修の機会を確保すること、今後のさらなる活用に向けて、より充実したGIGAの環境が求められることが挙げられます。

それでは、まず成果として授業での活用の様子について説明します。

小学校は1年生から6年生と学齢の幅が大きいです。先生方が工夫をしながら学齢にあった取組みを行っています。小学校低学年では、教師が教材を大型テレビやプロジェクターで投影するなどして学びの補助として活用しています。小学校中学年になると、教科書を使うのか、図書資料を使うのか、またWebを使うか、各自が自分なりの方法で学習をすることができるようになってきています。5年生高学年になると、当たり前のように共同編集、協働学習が行われるようになっていきます。これも高速通信を基本としたクラウドベースの学習ができているからです。6年生ともなると、学んだことのアウトプットが上手になってきています。学習をインプット型からアウトプット型へと少しずつ変化させていくことで、学習内容の理解が深まっています。

ここで実際の授業の様子を動画で少し見ていただこうと思います。担任の先生は黒板に課題を示しながら、ホワイトボードに各班で考えた結果を映し出し、クラス全体で共有しています。

こちらは2年生の授業です。端末を使ってまとめた自分の意見を、端末の画面を直接見せ合いながら意見交換をしています。

支援が必要な児童生徒も、工夫をしながらタブレットを活用しています。

中学校でもG I G A端末が上手に使われています。保健体育の授業で心肺蘇生について授業していますが、G I G A端末を活用することで自分自身のことについて客観的に捉えられるようになりました。1人1台の端末があるので、自分の動きを具体的に見て把握し、互いにアドバイスを出し合うことができます。

現在は体育館にW i - F iのアクセスポイントがありませんので、体育の授業での利用は難しいですが、今後アクセスポイントが設置されれば、体育の様々な競技についても同様の取組みができると想定されます。

G I G Aスクール構想が始まる前も、教師がプロジェクターや大型テレビを用いて教材を提示することは行われていましたが、今では児童生徒が自分のG I G A端末で資料を共有できるようになり、実際に自分の考えを直接書き込めたりするようになっていきます。さらにとても大きな変化が共同編集というシステムです。一つのファイルを同時に編集することができたり、友達の考えを参照することもできるようになっています。実際に共同編集をしている様子です。画面上の付箋に生徒が自分の考えを書き込んでいます。

一方で場合によっては紙のプリントも併用して学習を行うこともあります。アナログとデジタルのそれぞれの良さを生かしながら、使い分けをする場面も見られるようになってきました。自分の思考を整理し、まとめるのには紙を使い、しっかりと文章で表現する。小学校、特に低学年から中学年ではそのような取組みも意識されています。そして、クラスメイト同士の意見交換を通して学び合い、学習に深まりをつくっています。端末が導入されたことで、学びの方法に広がり生まれます。以前は生徒の意見を教師がまとめながら、全体に共有していくスタイルが一般的でしたが、クラウドを利用することで、クラスの友達がどのような意見を持っているのかが即座に分かります。誰に相談したらよいか、学び合いのきっかけを見つけることも容易になりました。そして、教師は子どもたちがお互いに学び合っている姿を俯瞰的に見ながら、学級全体の学びをコーディネートするような形に授業の様子が変化してきています。

このように進んできた授業のI C T化ですが、子どもたちはどのように感じているのでしょうか。これは児童生徒へのアンケートの結果です。「勉強が分かりやすくなった。ネットの注意事項が理解できた。」など、肯定的な意見が多く出されました。また、全国学力学習状況調査の結果を見ると、「学習の中でパソコンやタブレットなどのI C T機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか?」という質問に対し、小学校では95.1%、中学校では93.3%が「役に立つ」もしくは「どちらかといえば役に立つ」という肯定的な回答をしていることが分かります。このように児童生徒の立場からも、I C Tを活用した授業については肯定的な感情があることが分かります。

次に先生方の校務での活用です。G I G A端末は授業だけではなく、校務の場面でも

I C Tが活用されています。オンラインでの会議は当たり前になり、参集とオンラインのハイブリッド会議も行われています。また、研修会では端末を手元に置きながら意見交換を行う姿がスタンダードになりました。より短時間で意見の集約ができたり、資料の提示が即座に行えたりと非常に良い形で活用をしています。令和4年度の指定研究発表会では、教育委員の先生方にもオンライン発表にご参加いただきました。校務でG I G A端末を活用するからこそ、その操作に慣れ、授業にも当たり前前にG I G A端末を利用できるという良い相互作用が出ています。先生方の日常的なI C T機器の活用が、子どもたちの学びの場である授業にも生きていることは素晴らしいと思います。また、南アルプス市のG I G A推進のために、各校代表のG I G A推進員の先生方の存在は欠かせません。年6回のG I G A推進委員会では意見交換を行ったり、各校の取組みを報告していただいています。推進委員会の中で提案された良い取組みは22校で共有し、市内全体の取組みの底上げを行っています。年度末には1年間の取組みの成果を実践集という形でまとめています。今年で3年目となる実践集の作成ですが、I C Tを活用した授業の参考にできるようにしています。成果の部分の最後にその他のI C T活用として少しだけ実際の取組みを説明します。まず、夏期休業中には情報モラル教育講演会と題し、「インターネットの賢い使い手となるために」をテーマに、日本メディアリテラシー協会の寺島様にご講演をいただきました。

次に、朝の欠席連絡もデジタル化しています。保護者からの欠席の連絡は、スマートフォンやパソコンから送信できるようになっています。保護者の負担が減る。朝の電話対応が減り、落ち着いて児童生徒教室で迎えることができる。全職員での共有ができる。落ち着いた時間に電話連絡ができ、保護者とより良い関係づくりができるなどメリットが多く、I C Tの効果的な活用をすることができます。現在はこの欠席連絡をもう少し発展させ、不登校の未然防止対策としても活用しています。まだまだ試行の段階ですが、市内の研究推進校にてG I G A端末を活用して毎朝の健康観察を行っています。体調面のことだけでなく、心の様子を入力することができるようになり、生徒の状況の把握に繋がられないかという検証を行っています。児童生徒の端末には教育相談窓口を紹介するアイコンを配布しました。G I G A端末を開いてアイコンをタップすると、教育相談窓口を紹介するページへと移動することができます。電話相談、SNS相談など児童生徒が自分の希望に応じて窓口を選べるように紹介をしています。このように授業以外の場面でもG I G A端末を活用することについて、現在も試行錯誤を繰り返しながら様々な取組みを行っています。

さて、多くの成果を上げた3年間ではありましたが、一方で課題も見えてきました。まず、利用頻度の差と研修の機会の確保について説明します。全国学力学習状況調査の結果からは、南アルプス市の端末利用量は全国、山梨県とほぼ同程度となっています。しかし、端末の使用記録から利用状況の分析をしてみたところ、学校間での利用頻度に多少の差があることが分かってきました。また、中学校ではG I G A端末の利用状況と合わせて、デジタルドリルの利用頻度についてもラインズ株式会社と連携して分析を行

ったところ、こちらについても利用頻度に差があることが分かりました。そこで、本年度は毎年実施しているGoogle社のコア研修、アドバンス研修という2種類の研修に加え、ラインズ株式会社にご協力いただき、講師の方と指導主事で各学校を訪問してデジタルドリル研修を実施しました。検証を実施した結果、デジタルドリルの利用頻度については、昨年12月時点で、昨年度1年間の1.5倍の利用となり、着実に利用が広がっているということが分かりました。利用頻度に差はあるものの、市全体としての底上げにはしっかりとつなげることができました。これは実際にデジタルドリルを活用している場面です。画面を指でなぞるだけで画面上の図に線を書き込むことができますので、思考を深めるために利用することができます。知っているか知らないかという一問一答の問題だけではなく、思考力を問うような問題も用意されています。家庭学習にデジタルドリルを活用している学校もあります。この学校はデジタルドリルの活用が進むと同時に授業中のGIGA端末活用量も増えていきました。

3つ目の課題として、さらなる活用に向けて、何が必要なかを考えていく必要があるという点が挙げられます。今後想定されるICT関連の変化としては、大きなものとして全国学力学習状況調査や運動能力調査、県学力把握調査などの全国規模、全県規模で実施される学力調査等について、CBT調査という紙ではなくGIGA端末を利用してオンラインで回答する形での実施が予定されています。また、デジタル教科書の導入も徐々に進んでいくことが想定されます。その中で現在のところ、教師用のGIGA端末については、各学級に1台の配置状況となっており、教師1人に1台を配備することができておりません。先生方がGIGA端末を授業で使うことはもちろん、校務での活用が進んでいることから、より充実した環境整備を目指していこうと考えています。また、Wi-Fiのアクセスポイントについては、体育館、理科室、音楽室、図工室等への設置がこれからとなっております。これは音楽室の隣のパソコン室のWi-Fiの電波を受信しようと壁側で作業したり、時には廊下に出て作業するなど、生徒たちが工夫しながら音楽の学習をしている様子です。このように各学校では今ある環境の中でもできる最低限のことに取り組んでくれていますが、やはりより良い学びを実現していくために、環境整備についてはより積極的に進めていかなくてはならないと感じています。

ICTを活用する環境がさらに整備され、どこからでもクラウドを利用した学びができるようになると、学校の授業はどのようになっていくのか、GIGAスクール構想に関する有識者会議にも参加されている東京学芸大学の高橋純教授のインタビューをご覧ください。（動画を再生）

今の高橋教授のインタビュー内容をもう少し簡易的に具体的に説明したいと思います。もし、今後理科室にWi-Fiの環境が整い、クラウドを使いながら授業を行うことができるようになったらという想定です。ここで示している授業の流れは、目新しいものではなく、特別なものではありません。班で協力して実験を行うというよくある形の授業です。しかし、特徴として実験結果の共有の場面でクラウドを利用します。これにより即座にデータや考え方の共有ができ、考察という学びを深めるために、最も大切



な時間をしっかりと確保することができるようになります。また、教科書もデジタル化が進んでいくと考えられます。具体的に少しだけデジタル教科書の様子をお見せします。デジタル教科書では様々な映像資料を見ることができたり、実際に見ることが難しいものをアニメーションで表現したりすることができます。今までは、デジタル教科書は教師が使うだけでしたが、今後は児童生徒一人一人がこのようなデジタル教科書を家庭学習でも利用できるようになる可能性があります。自分自身のペースで学びを深めることもできるようになり、教職員と児童生徒が共に活用することで、より効果的な学びができるようになると考えられます。

家庭学習の様子も少しずつ変わっていくことが考えられます。具体的なものを動画で少し見ていただければと思います。（動画を再生）

このように、今まで以上に授業と家庭学習の連携が図られることが予想されます。そして、今の子どもたちにとってICT機器は特別なものではありません。NTTドコモモバイル社会研究所の調査から小中学生のスマホを保有率を見てみると、小学生で小学校6年生以上では半分以上、中学校3年生では約8割の生徒がスマートフォンを保有しています。子どもたちはICT機器が当たり前にある環境の中で生活しています。だからこそ、学校でもICT機器を当たり前の道具として日常的に使いながら正しい使い方を身につけさせていく教育が必要になっていきます。

今後まもなく訪れると言われているSociety 5.0の社会。社会の変化が加速度的に増加し、複雑で予測不能な未来がやってくると言われています。だからこそ、そんな未来を生きる子どもたちをよりよく育てていくために、従来の日本型教育の良さとICTを活用した授業を組み合わせた令和の日本型学校教育を南アルプス市の学校教育の中で実現させていきたいと考えております。

以上、本市のICT教育について、令和5年度までのGIGAスクールの取組みの成果と課題を中心に報告させていただきました。今年度も教職員の指導力や児童生徒の活用能力の向上に努めてまいりましたが、今後も質の高い活用を目指してまいりたいと思います。引き続きご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

（金丸市長）

担当者からの説明が終わりました。ただいまの説明につきまして、何かご意見とありましたらお願いをいたします。

（渡邊委員）

渡邊ですが、よろしく申し上げます。

ちょっと聞きたいことがあります。今年度は明治6年に学校教育制度ができて、もう150周年という年になりました。いくつかの学校が南アルプス市の中にもあります。また南アルプス市も6ヶ町村が合併して早20年が経ちました。今、学校教育は大きな

変革期を迎え、「令和の日本の学校教育」が推進されている状況です。令和3年度より「GIGAスクール構想」の実現に向けて、市当局や教育委員会のご努力により、瞬間に学校現場22校に1人1台パソコンが導入され、そして各学校に設置され、ICT教育が始まりました。児童生徒が使用できるようになるまでには、教育委員会をはじめ、学校現場の教員の努力により、コンピュータ機器やその他周辺機材の計画的な設置、教師全員ができるようになるための研修会が何度も実施されていたことと思います。このことにより、学校現場の教師や生徒が安心してコンピュータ機器の使用ができ、多くの技能や技術、そして知識を身につけて、ICT教育の導入に向けた準備が少しずつ整ってきたことと思います。学校では児童生徒が「授業の中でどのように使用できるか、どんな力を身につけることができるか」、校内研究会を通しながら、試行錯誤し作り上げてきた3年間でもあったことと思います。私たちも学校訪問を通じて授業参観をさせていただきました。そして着実にICT機器を活用しての授業時数は増加してきました。さらに、毎年実施されている研究指定校式による公開研究会も定着し、もう3巡目に入ったようですが、教師がともに切磋琢磨して、他校の先生方からもご意見をいただく中で、「学びの質を高める授業づくり」に励んでいる姿を拝見させていただくことができました。ありがとうございました。

私の方から質問をいくつかさせていただきます。課題として挙げられておりましたけれども、先ほどICTを活用した授業への子どもたちの感想という資料がありました。非常に肯定的な意見が6割を超えるというふうにありましたが、逆の方向を見ると、そうでない子どもに対する手立て等々も必要と思います。ICTを使う教師の利用頻度の差というものも、いろいろなところに影響してくるのではないかと思います。それらについてどう対応するか。また、それらを解決するための研究会の機会の確保ということも非常に大事になってくると思います。授業づくりや、資料づくりということもその中でなされるわけですが、時間の確保が非常に心配です。先生方の仕事量が増えるような気がする訳ですが、「そういう点についてはどう考えているのか」、考えをお聞かせいただければありがたいと思います。以上です。

(学校教育課・清水指導主事)

はい、ありがとうございます。確かに新しい技術も導入しておりますので、その技術を先生方が学ぶためにも時間がかかると思います。最初の1、2、3年ぐらいは、やはり業務にかかる時間を減らすことは難しいのかもしれませんが、今後このICTを効果的に使えるようになることで、今までと同じ取組みをするにしても、事前にかかる準備の時間ですとか、あとの時間ですとか、そういった部分はかなりコンパクトになることが想定されます。そういった部分で、今後、先生方の働き方改革と言いますか、時間の部分での改善は進んでいくのかなというふうに思います。また、各校でもICTを効果的に活用することで、校務をよりスムーズに進めることができるように取組みを検討していただいておりますので、少しずつですが時間の確保ができるようになり、それがま

た研修等の時間を確保していくことにも繋がっていくと思います。ひいてはそれが子どもたちの学びに繋がっていくと思いますので、やはりICTを今後も引き続き効果的に使えるそのような取り組みを進めていく必要があるかと考えます。

(金丸市長)

その他に何かご意見等がございますか。

(芦澤委員)

委員の芦澤です。よろしく申し上げます。

先ほどの説明の中で、今後想定されるICT関連の変化についてということで、全国規模、それから全県規模の調査がCBT化、GIGA端末で実施されるっていうような見通しだということですが、それについて、小中学校についての環境整備の状況について教えていただきたいと思います。

(学校教育課・清水指導主事)

はい、ありがとうございます。現時点では回線速度や回答するためのシステム等はしっかり準備ができております。各校で先生方が協力しながら調査のCBT化に向けての準備も進めてくださっています。しかし、今後はさらにICT化が進んでいくこと考えますと、GIGA端末の更新や先生方への端末の配布、デジタル教科書の整備など、課題はまだありますので、先を見通す中でしっかりと取り組みを進めていきたいと考えます。

(金丸市長)

その他に何かご意見等がございますか。

(名取委員)

教育委員の名取です。よろしく申し上げます。

意見や質問もありますのでよろしく申し上げます。

今の様子を聞かせていただきまして、南アルプス市及び市教育委員会のご理解により、ICTにかかる学校教育環境整備とICT教育に先進的、精力的に取り組まれていることにまず感謝申し上げます。タブレット端末を授業の中で活用することはもちろん、校務での効果的な活用だったり、不登校の未然防止対策、または不登校児童生徒への支援の手立てとして活用したりするなど、幅広く活用されている様子が理解できました。色々な活用方法がある中で、タブレット端末を授業の中で使用することで、児童生徒一人一人の理解が深まり、授業内容が分かること、また授業が楽しいと思うようなことで、次への意欲に繋がるというようなことが、私は最も大切ではないかと考えております。そこで3点、多くて申し訳ないですが、質問をさせていただきます。

1点目ですが、只今見せていただきました資料の中にも、いくつかの学年の活用事例が示されていましたが、こんな活用事例がもう少し具体的に主体的・対話的で深い学びになったという例がありましたら、代表的なものを教えていただきたいというのが1つ。

次に、効果的な活用と思われるものをクラウドに蓄積し、市内の教員なら誰でも見たり活用できるようなシステムは今のところあるのか、今後どうなっていくのかというようなところを教えていただきたいと思います。データが蓄積されたものを他の学校の先生たちがそのまま使っても、また今度、学校または子どもたちの実態によってアレンジをしながら使って、それをまたクラウドにアップする。そういうようなことで、質の高い授業になっていくのではないかというようにも考えられますし、教師の働き方改革にも繋がっていくのではないかと考えております。それが2点目です。

3点目ですが、不登校児童の支援のことですけれども、GIGAスクール構想が進む中で、不登校児童生徒への通常授業のオンライン配信についての現状について、どのような進め方というか、環境とかであるのかというようにも教えていただきたいと思います。

以上3点ですが、よろしく申し上げます。

(学校教育課・清水指導主事)

まず、活用事例について説明をさせていただきます。例としては、修学旅行などの事前学習から、当日また旅行後のまとめ学習などが分かりやすいかなと感じます。今まででは多くの場合、書籍等からの情報のみで事前学習をしていましたが、これがWebも使えるようになり、より多くの情報に触れることができるようになっていきます。また、クラウドの活用により共同編集等も行えるようになっておりますので、個人だけではなくグループで資料を同時に作成することもできます。その中で友達の資料や考え方を知ることができますので、自然と対話が生まれて学び合いも深まっていくのではないかと考えます。さらに旅行後の事後学習では今まで蓄積してきたデータがありますので、それを活用しつつ、自分の学びを整理して、最終的にはプレゼンテーションという形でアウトプットしていくということで、さらに学びを深めることができると考えます。学習の過程全体を通して自分にとって最適な活用をしながら学びを進めていくことができますので、とても良い事例だと感じます。

続いて、先に不登校支援についてよろしいでしょうか。不登校支援に関しては、オンラインでの授業ということで、少しずつ対応は検討しています。児童生徒、保護者が希望する場合には、なるべく多くの授業で実施できるように、各学校でも努力をしてくださっています。ご自宅にしながら授業の様子を配信で見ることができそうですが、課題の中でお伝えしたように、配信用の端末が不足していることや、校内のWi-Fi環境が保健室や相談室にはありませんので、保健室や相談室等で同じ授業を受けたいという子どもに関してはなかなか配信ができていないという部分では課題だと感じます。

(増山教育長)

2つ目の回答と、3つ目の不登校支援オンライン配信の部分についても少しお話をさせていただきます。

まず2つ目の教師が共有化したらどうかというクラウド化の話ですけれども、小中学校とも学校は違っても同じ教科書を使っていますから、同じ学年であれば進み具合は違っても、最終的に学ぶことは同じということですので、教師が端末を使って指導する方法、こういう工夫したものについて、良い授業をできたものについては、それを学校間で共有できるように全体の共有クラウドを作ってそこに入れて教師同士で共有したり、さらに良い方法があれば、その上に上書きするなどして使っていくというようなことが良いだろうということで、一応お話しはしてあります。そして、もうすでに準備も進めているということを知っています。また、そういうことをすることで、市内学校全体の授業のレベルが上がって、上がれば子どもたちに還元されるということになりますので、子どもたちの豊かな学びに繋がっていくと考えます。もちろん、委員さんがおっしゃられたように、先生方の多忙化の改善にも繋がっていくのかなとも思っています。

それから、3番目の不登校の支援、オンライン配信についてですけれども、先程、端末の不足があるということもスライドにあったのですけれども、今のところ児童生徒の1人1台端末については完全に配備されております。それから、クラス数に応じて、1つのクラスに1台の端末が配備されております。ですけれども、教師の方に1人1台端末が完全には整備されていないことから、教室に配備されている端末については教える先生が使っており、配信するとなるともう1台端末が必要になりますので、その部分は不足しております。それから、先程のスライドにもありましたが、特別教室で授業をする時に、どうしてもWi-Fi環境が整っていない部分がありますので、Wi-Fiを拾えるところまで移動して授業を受けたりそういうことをしています。ですから、その辺の不足の部分も含めて、できましたら来年度以降予算協議をまたお願いしたいと思えます。

(名取委員)

はい。どうも丁寧なご説明ありがとうございました。様子を聞いたり、スライドでも見た通り、これまでの実績は授業に変化をもたらせ、確実な成果に繋がっていくものと思います。一方課題も示されましたけれども、課題は私は決して悪いものではないと考えております。それはですね、今後取り組むことが明確になっていると捉えることができるのではないかなと思います。ですので、今後は3つの課題を克服し、また児童生徒の分かったとか、楽しいというような声がさらに教室に響くことになりまうように、また、不登校児童生徒の支援にも繋がっていきますように、効果的な活用方法をさらに広げてほしいと願っています。どうもありがとうございます。

(金丸市長)

西海委員はいかがでしょう。

(西海委員)

教育委員の西海でございます。よろしくお願いいたします。

少しばかりの意見と、一つご質問があります。よろしくお願いいたします。今日は令和の日本型学校教育の推進ということで、本市の理解をもとに進められている、授業での利用とか校務での利用、その他にもいろいろな可能性があるということで、利用の実態について学校教育課からいろいろ話をいただきましてありがとうございました。私たち教育委員も各学校に学校訪問などでお邪魔させていただきまして、その利用の実態とか効果があることなどを拝見いたしまして感じております。

また、保護者と致しましても、ここ数年のこういった取組みについての成果というのは目の当たりにしてございまして、これからの未来生きていく、子どもたちにとって必要な力を身につけさせるために、とても有効なものであると感じておりますし、子どもたちが社会に出てからも実際にそのまま役立てることができるスキルに繋がっていくというふうに感じております。また、他の先生方からもご意見がありましたが、多くの子どもたちが肯定的な意見を持っているということも、もちろんありますけれども、少なからずの5%とか7%の子どもたちがなかなかその効果についてまだ見出せてないというところも現状だと思いますし、30%ぐらいにはどちらとも言えないという中からの肯定的な意見を出しているのです、ぜひその中にこれからの効果的な活用についての課題が含まれていると思いますので、なぜそのように感じているのかということ、また声を汲み取っていただけたら、今後のさらなる活用に繋がっていくのかなというふうに思っております。

今日は今年度までで3年に至るということで、市教委から3つの課題が示されておりましたけれども、利用頻度のことや研修の機会の確保ということで言えば、今日早速こういったことについてですね、もう課題を見出していますので、個々に研修なども行われているということも今日のお話を伺いました。また、GIGA推進委員の先生方が各校に1人ずついらっちゃって、6回委員会を開催して意見交換をしたり、様々な形で先生方にフィードバックができるような体制が作られているということも非常によく分かりまして、早速課題を生み出しながら、それに対応する策なども作ってくださっているなということ、またありがたく感じております。研修の内容につきましては学校教育課にお聞きいたしましたところ、学校の先生方に効果的な活用の仕方について具体例を示しながらお話をしていただいたということで、長年培われた技術を、また、こういったものをさらに使って子どもたちへの授業の中で、学びの中で役立てていただけたら良いなというふうに思っております。

さて、デジタルドリルの研修を実施したということで、子どもたちの利用率が高まったという話が本日ありましたけれども、先生たちのご理解のもとに、子どもたちの学習

の中に利用が広がっていること、非常に嬉しく思っております。デジタルドリルについては、今後授業だけではなく、家庭学習でも活用されることが増えていくという話が今日はありましたけれども、デジタルドリルを家庭学習で用いることで、どのようなメリットがあるかということをもう少し詳しく教えていただけたらと思っております。よろしくお願いたします。

(学校教育課・清水指導主事)

はい、ありがとうございます。家庭学習を定着させていくということは、とても大切だと思うのですが、学校外の活動となりますので、なかなかの教師側で子どもたちの取り組みの様子が把握しづらいということがあります。また、今までですと、家庭学習用の教材プリント等を作成することにも、時間がかかっておりました。この点において、デジタルドリルであれば解消されるということを考えます。教師が問題の作成をする必要もありませんし、デジタルドリルに子どもたちが取り組んだ学習履歴も蓄積されていきます。学習履歴が蓄積することで、その児童生徒に応じた難易度の問題が出題されるようになります。そういった点では今までの課題の部分が解消されていくのかなということも思います。また、採点も自動的に行ってくれますし、解説も用意されておりますので、そういった点で、非常に仕事の面でコンパクトになってスムーズになっていくという部分と、教師側での把握がきちんとできるということで、効果的になっていくのではないかなということを考えます。

(増山教育長)

今のデジタルドリルに関してなんですけれども、実は私も端末の機能の確認をするためということと、いつまでも頭を柔らかくしておきたいなということで、時々デジタルドリルをする時があるんですけれども、回答を集計した後にその回答の解説とともに、その内容をAIが読み取って、弱い部分、強い部分を評価してくれるんですね。これは例えば、子どもたちが家で一人でデジタルドリルをやったとすると、横に先生がついて、すぐにそこで強い弱いここをやった方が良いよと教えてくれるようなものだなと感じてるんですね。以前は通信教育みたいなものがあって、回答を郵送する。そうすると、その回答に対して添削をして評価をしてくれて、また郵送で送ってくる。ですから、郵送に時間がかかるんですね。リアルタイムじゃないですね。今はだから素晴らしい機能だなと思っているんですけれども、今の清水指導主事の回答の中に学習履歴ということがありましたけれども、これについてももう少し説明いただけるとありがたいですけれどもいいですか？

(学校教育課・清水指導主事)

はい、分かりました。少し具体的な話をしてもよろしいでしょうか。例えば中学生の理科の課題をデジタルドリルで生徒が取り組みます。私が出した理科の課題に取り組む

前にも様々な教科の課題に取り組んできて、この学習履歴が溜まっているわけですが、私の出した理科の課題の学習が終わった後に、その子に対して「あなたはこういったところをもう少し取り組んでいくと良いと思いますよ。」ということデジタルドリル側が提案してくれるという形になっています。その個人に応じ、どこが苦手であるかというところを、学習履歴から判断し、適切な問題が出されるということがとても良いと思います。

また、私の個人的な考えですが、理科の課題に取り組んだ後に「あなたにとっての課題、おすすめの問題、これですよ。」と表示される時に小学校3、4年生ぐらいの問題が表示されることもあります。中学生に対しても小学校までの学習に対してのフォローもしてくれるというところで、そっとその子に必要なところをドリルが提案してくるということは、大きなメリットではないかなと私は個人的には考えます。

(金丸市長)

その他にご意見等がございますか。

(芦澤委員)

もう1点だけ、これは質問というかではなくてお願いなんですけれども、今の話の中で令和の日本型学校教育の目指すところの個別最適な学びと、それから協働的な学びの一体化、それにはやっぱりICTっていうものは欠かせないものだという事は本当によく分かりましたし、その整備を市当局はじめ本当にご尽力いただいていることに感謝しています。今のデジタルドリルにも関わって、ドリル形式とやっぱり先ほどその中でも思考に関する質問もありますなんていうことも出ましたけれども、まさしく私が仕事の中で学生に「ICTのCって何だっけ？」聞くと、未だにコンピュータというふうに答える学生がいるんですけれども、「そうじゃないよ。コミュニケーションのCだよ。」ということで、やっぱりそのせっかく使っているんで、先ほどのその高橋教授の話もあったように、確かに学力の3つの大きな要素の大きな思考力、判断力、表現力、その育成のためにも、ぜひそのコミュニケーションという部分、そこも大事にしてもらって、活用を充実させていただければありがたいなというふうに思っていますので、ぜひよろしくをお願いします。以上です。

(金丸市長)

今のご意見についていかがでしょうか。

(学校教育課・清水指導主事)

はい、ありがとうございます。おっしゃる通りだと思います。私もデジタルドリルだけやれば良いということではなく、やはり広げていくこと、コミュニケーションをとることが大事だと思います。先生方も学習履歴を蓄積していく中で、それを教師側



からも見ることでできますので、その子にとってどんなアドバイスが良いのかと参考にもしていただきながら、子どもたちとのコミュニケーションの話題、また、子ども同士のコミュニケーションの1つのきっかけとしても活用できていくと良いかなというふうに思いますので、両面から活用して頂ければと思います。ありがとうございます。

(金丸市長)

その他にご意見等がございますか。

私からも1つよろしいでしょうか。G I G Aの3年目の課題として、利用頻度の格差、活用の格差が出ているということですが、格差がますます広がっていくとですね、利用できなくて落ちこぼれてしまう人と、どんどんどんどん前に行ってしまう人と、極端になってくると思うんですけれども、その辺の見通しはどうなんでしょう？

(学校教育課・清水指導主事)

まず、学校教育課としてはICTの活用が苦手な先生方に対しての基礎的な部分での研修等については準備できるように進めております。また、非常に効果的に学校の中で取り組んでいるということを感じるのですが、各学校の取組みを聞く中で、1週間に1回とか2週間に1回でとか、ICT関係が得意な先生方が学校でミニ研修会みたいな形を開いてくださっていて、そこに苦手な先生方が一緒に参加して一緒にやってみましょうということが行われています。また、ICTは苦手だけでも教職としての経験は豊かで、そういった先生方から授業のアドバイスをもらったりですとか、良い教員同士のコミュニケーションの場にもなっているということも聞いております。そういったところで、苦手だから使わないということがないような取組みを教育委員会としても学校現場も両輪で進めていけたら良いということは感じております。

(金丸市長)

そういう先生方も、そういうのはあると思いますけども、子どもたちのその差っていうのがどんどん開くのではないかっていうような気がするんですけども、その辺はいかがでしょうか。

(学校教育課・清水指導主事)

大人の苦手感の広さよりも、圧倒的に子どもたちの苦手感は小さいかなということは感じます。やはり、子どもたちは素直に触りながら覚えていくということが自然と行われているからだと思います。ただ、先ほど利用履歴とか苦手感っていうのも数値的な部分で知ることでもできますので、そういった児童生徒に対して教員側からフォローしていくということができると思います。

(金丸市長)

まだ時間がありますけれども、その他にご意見等がございますか。

(渡邊委員)

説明をいろいろ聞く中で理解できたこともたくさんありました。ありがとうございます。これから、児童生徒にとってICT教育がどんどん進められていくわけですが、この資料の中でもありましたが、情報モラルの教育についてどう進めていくのか。また一方では、保護者の皆さんがどんなふうに理解をしているのか、何か声があったら、僕らみたいに困ってる人もたくさんいるんじゃないかと思しますので、お願いします。

(学校教育課・清水指導主事)

ありがとうございます。まず、1点目の情報モラルについてですが、今年度、先ほど話をさせていただいたICTの活用事例集の作成にあたって、情報モラルについて各学校の取組みについて挙げていただいています。来年度は山梨県の方で進められているモラルのカリキュラムがあるのですが、そちらも各校の教育課程にうまく組み合わせていただいて、情報モラル教育については積極的に行っていこうということを考えております。

2点目の保護者への周知というところなのですが、やはり今回話をさせていただきましたが、SNSやスマートフォン等は当たり前にある環境の中で子どもたち生活しています。そういったものについては、保護者の許可のもとで使っているということもありますので、やはり保護者も含めてそういったICT、SNS、インターネット等についてご理解をいただいく、また、このGIGAの学習についてもご理解いただくということは大切なことなのかなと思います。ここ2年ほど、様々なアドバイスいただく中で、保護者の方も一緒に情報に関する教育講演会等を聞いていただいたりですとか、学校の中でもそういった啓発をしていただいたりというところで、対応しております。

(金丸市長)

その他にご意見等がございますか。(無し)

本日は、ICT利活用の現状や成果、今後の課題が共有できました。現在、学校に通っている子供たちは、幼少期からスマートフォンやタブレット、インターネットに慣れ親しんでいるデジタルネイティブ世代です。1人1台端末が整い、パソコンを用いた授業が当たり前となっていく中で、児童生徒のICT活用能力は今後さらに高まることだと感じております。GIGAスクール構想が本格始動してから約3年、まさに過渡期です。現場の先生方は、多くの校務や児童生徒と向き合う仕事の中で、日々大変な思いをしながらICT利活用の推進に取り組んでいただいております。市としましても、先生方を支援できるよう、しっかり取り組んでまいりたいと思います。

以上で協議事項は終了します。教育委員の皆様、貴重なご意見をありがとうございました。

### 3、その他・閉会

(政策推進課・依田理事)

ありがとうございました。

それでは次第の3、その他に移ります。委員の皆様から何かご意見等ございますでしょうか。(無し)

無いようですので、これで本日の日程を全て終了といたします。

以上をもちまして、令和5年度第1回南アルプス市総合教育会議を閉会といたします。

最後に挨拶を交わします。ご起立ください。相互に礼。

お疲れ様でございました。

以上